

トルコ為替週報

2021 年 10 月 12 日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去 1 週間の動き>

(10 月 5 日～10 月 11 日)

USD/TRY: 8.8475～8.9750

TRY/JPY: 12.48～12.63 (参照値)

過去 1 週間のトルコ・リラ相場は、対ドルで下落、史上最安値を更新したものの、値幅は-1.4%強と限定的だった。対円では、安値圏における横ばいで、並行した円全面安を受け、むしろ堅調気味の推移を見せた。リラ安の背景は、引き続き、9 月 23 日の予想外の利下げ(-100b.p.)に対する失望と、追加利下げに対する警戒感にあったものと考えられたが、8 日の急落、史上最安値更新(注)は、一部大手通信社による「エルドアン大統領は(トルコ中銀)カブジュオール総裁に失望している」との報道をきっかけにした。同大統領は、これまで、19 年 7 月にチェティンカヤ総裁(当時)、20 年 11 月ウイサル総裁(同)、更に 21 年 3 月にアーバル総裁(同)を唐突に解任しており、「次はカブジュオール総裁の番」との憶測を招いたのだ。直後のリラ急反発は、アルトゥン大統領報道官の「(同報は)フェイクニュース」との発言に対する反応。しかし、同日中に再びリラが急落した値動きは、市場が、カブジュオール総裁更迭を、現実的に警戒している可能性を示唆したと言えよう。9 日には、現地紙が、(英経済紙の転電という形で?)後任にトゥメン副総裁が有力と報じた。週明け 11 日、発表されたトルコ 8 月経常収支が小幅ながら黒字に転じたにもかかわらず、リラが下押ししたのも、カブジュオール総裁更迭の可能性を警戒した値動きだったであろう。

<過去 1 週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/11	7:00	経常収支(USD)	8 月	+0.53bn	-0.10bn	-0.92bnr
	7:00	失業率	8 月	12.1%		+12.1%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう 2 週間の見通し>

(10 月 12 日～10 月 25 日)

USD/TRY: 8.880～9.100

TRY/JPY: 12.50～12.75

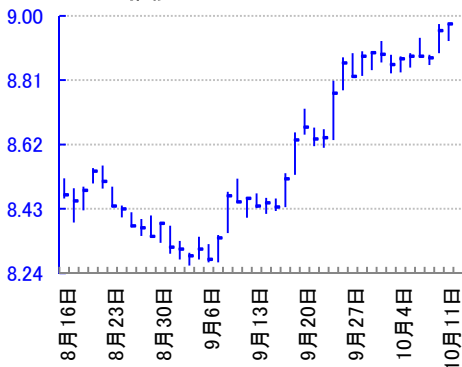
向こう 2 週間のトルコ・リラ相場は、軟調推移継続を予想。アルトゥン報道官は事実無根と言ったが、「火のないところに煙は立たない」という考え方もある。上述大手通信社の報は、「失望」の理由として、利下げが 9 月にまで遅れた点を挙げていた。確かに、エルドアン大統領は、6 月 1 日に、「カブジュオール総裁と話した」「7 月か 8 月には利下げを開始するだろう」と明言していた。同大統領の過去の実績に鑑みても、4 人目の総裁更迭は十分現実的に考えられるのではない。また、一連の報道に相応の真実味があると仮定するならば、追加利下げに向けたエルドアン大統領からの圧力は相当なものであることが推測される。仮にカブジュオール総裁がその地位を維持するのであれば、踏み込んだ追加利下げは不可避ということになろう。トルコ中銀が、もし 10 月 21 日に 100b.p. の追加利下げに踏み切れれば、政策金利とコア CPI が逆転する(コア CPI が政策金利を上回る)可能性も十分に考えられるが、カブジュオール総裁は、政策金利を比較して高く維持するとした物価の対象を CPI の総合指数からコア指数にすり替えた上、既に、金融政策判断の目安を「商業貸出残高」に移す可能性を仄めかしている(10 月 7 日)。総裁の首をすげ替えるにせよ、拙速な利下げに踏み切るにせよ、万が一現実のものとなるなら、それが明らかにするのは中銀独立性の欠如で、トルコ経済が少なくとも過去 4 年間経験してきたリラ安と高インフレの悪循環から抜け出すことは一段と難しくなるであろう。

<向こう 2 週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/12	7:00	鉱工業生産(前年比)	8 月		+10.5%	+8.7%
	7:00	小売売上高(前年比)	8 月			+12.3%
10/15	7:00	期待インフレ率(12 カ月)	10 月			+12.94%
	8:00	財政収支(TRY)	9 月			+40.8bn
10/21	11:00	1 週間物レボ金利				18.00%
10/25	7:00	設備稼働率	10 月			78.1%

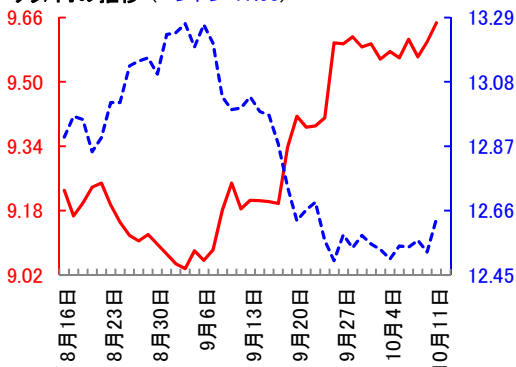
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRY の推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



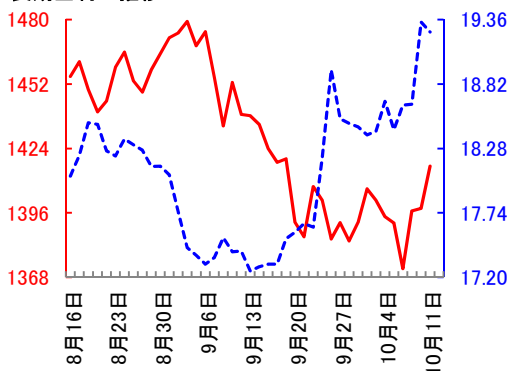
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン 17:00)



株式市場の推移 (ISE 100 種指数)

長期金利の推移 (5 年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1 週間物レボ金利		18.00%
成長率(GDP/前年比)	Q2	+21.7%
失業率	8 月	12.1%
消費者物価(前年比)	9 月	+19.58%
鉱工業生産(前年比)	7 月	+8.7%
小売売上高(前年比)	7 月	+12.3%
貿易収支(USD)	8 月	-4.26bn
経常収支(USD)	8 月	+0.53bn

<お知らせ>

筆者休暇のため次回の「トルコ為替週報」は 10 月 26 日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、よろしくご諒承ください。

(注) 11 日のロンドン市場引け後に 9.0200 まで続落

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。